

平成23年度（2011年度）

平成24年度（2012年度）

平成25年度（2013年度）

豊間の被災状況



いわき市全体
(33万人 13万世帯)
死者行方不明者347名
全壊7,640棟
豊間地区
(2千人 620世帯)
死者85名
全壊430棟



建物がれきを撤去した状況
(11月24日)

ふるさと豊間復興協議会の活動・復興プランの調整



2011年8月28日 ふるさと豊間復興協議会設立(地区各団体)
9月26日 復興プラン検討 協議会案を決定
9月29日～10月26日 市との摺り合わせ会議3回
10月31日 市の復興プランと条件付き一本化
11月10日～16日 全体町会別説明会5回、協議会主催
11月26日 復興方針の確認、意向調査結果報告
12月 災害公営住宅の早期建設を市に要望
2012年1月～3月 市計画案(区画整理)の協議会との調整



協議会役員と市・県との摺り合わせ会議、9月29日

協議会主催 復興方針全体説明会、11月10日～16日

市の復興計画案

1周年慰靈祭



弓なりの美しい海岸線
30,000本のキャンドルで追悼する。倉本聰劇団支援。

事務所・生活サポートセンターの設置

住民ワークショップの開催

情報発信コミュニティを繋ぐ



木造パネルの組立て
みんなで新聞紙を丸めて断熱材に



画伯・子供による海の絵
左:事務棟(8坪)、右:サロン棟(14坪)

2012年5月～6月 3回7日間 ワークショップによる事務所棟建設(地元有志、一般、学生ボランティア)

資金…いわき市補助金68万円、有志寄付金100万円、その他豊間区

7月末～11月初 Tホーム支援によるサロン棟建設…有志寄付金75万円、その他豊間区



出された意見を班ごとに発表
参加して良かった人はオーバー!

町会や隣組がしっかりしてたね

提言 若い世代、子どもが戻れる街を創る

公営住宅 第1回～第5回
9/1、9/2、10/7、11/24、
11/25
◆住民の参画延べ130名

生活産業 第1回～第7回
9/15、
9/16、10/6、11/10、
12/8、12/8、12/9
◆住民の参画延べ180名

中間提案報告会 10月28日 最終提言発表会 形成25年1月27日

東京専門家支援グループ 延べ80名 いわき市建築士会青年女性委員会 延べ60名



◆広報紙の毎月発行、「ふるさと豊間だより」を郵送や回覧で全戸配布を目指す。(2012年9月から)
メールによる情報提供やホームページの開設は準備中。
◆生活再建相談会(週2回開催)、生活再建サポートセンター、12月から専門家アドバイザーが相談員に)
◆移動連絡所;バン型自動車をリースして被災住民の仮住まいに出向き豊間区移動連絡所に仕立てる。双方のきめ細かい情報交換を行い、区役員等が出向くことで郷土との一体感・連帯感による絆の維持を目指す。
FACE TO FACEの情報発信。

日曜市の開催(月1回・第1日曜日)

参加と交流高齢子供学生

防災緑地ワークショップ

目的:
●離散する住民の交流を深め、復興後のコミュニティ再構築を目指す。
●特産品や野菜などの直売システムを構築し、産業の再生につなげる。
●仮設店舗、産業・生活拠点(道の駅など)の開設、運営につなげる。



第1回 4月20日(土)、第2回 5月18日(土)、第3回 6月9日(日)、第4回 6月30日(日)
提言発表会 平成25年7月28日(日)

- 集い 楽しみ、交流できる魅力と価値づくり
- ・海や砂浜の魅力を高め、地域に愛される緑地
- 四季折々の彩りで屏風絵のような緑地
- ・高台の樹種のDNA(遺伝子)を緑地に継承
- ・ドングリ拾い、苗育て、植樹イベント
- ・住民の力で特産品となる実のなる木を植える。

復興庁「新しい東北」先導モデル事業：600戸のコミュニティと産業の再生

産業再生検討会議	協議会内に産業再生検討会議を設置(約50社)3月 —各事業者の再開意向調査、今後の産業再生の検討
仮設店舗準備会	9月22日発足、7回の会合、12名の参加者 —飲食店、協働工場、協働販売店、魚販売店の開設を検討
視察研修 計70名参加	11月17～18日 宮城県の仮設店舗6ヶ所、道の駅2ヶ所 1月26日 福島県の道の駅2ヶ所
講演会と4回のワークショップ開催 計130名参加	1月18日 第1回「かーちゃんの力を発揮する」 第2回「ひとりひとりが特産品づくりに参加する」 2月1日 第3回「産業再生・交流拠点ゾーン形成」を考える 2月2日 第4回「道の駅」が地盤づくりに果たす役割
提言発表会	2月28日 豊間まちづくり会社、産業再生・交流拠点をつくる。



◆住民交流拠点施設
・直売所、交流運動施設等
◆産業再生拠点施設
・特産品加工所、民宿等

景勝地(塩屋崎灯台)

災害公営住宅 団地町会づくり
「住戸交換方法の確認と団地町会づくり」 計120名参加
1回目 2月22日(土) 13:30～15:30 2回目 17:00～19:00
3回目 2月23日(日) 10:30～12:30 4回目 14:00～16:00

先進団地視察研修 3月1日(土) ◎団地自治会の活動事例 尾山台団地(上尾市) ◎ペット共生住宅の事例 松が丘団地(鶴ヶ島市)

平成26年度～ 災害公営住宅への入居(192戸)

コミュニティ再生、仮設商店街開設、特産品開発、産業再生・交流拠点開設準備、

区画整理のコミュニティ土地使用開始 再構築

産業・生活拠点(道の駅)、B&B民宿村
特産品・見学型工場(蒲鉾など)開設

1 プラットホーム構築

事務所

- 仮設事務所に、豊間区長兼協議会会長を始め6名が常駐
- 被災住民の情報交換・復興活動の中枢拠点



事務局体制

- 区、復興協議会、NPO美しい街住まい倶楽部で構成
- 復興活動のシナリオを検討し、合意形成と実証実験の推進役
- 今年度40回の会合



行政と連携

- 福島県、いわき市、UR都市機構等との行政等連絡調整会議
- 今年度9回の会合
- 拠点整備方策の検討



住民WS

- 住民ワークショップ開催
- 2月7日、2月11日
- 2月28日、3月1日



学生連携

- ワークショップ・現地調査
- 拠点地区整備、コミュニティ再生に向けた提案
(首都大学東京大学院生)



今年度成果

- 事務所、サポートセンターが復興の拠点としての役割を十分果たしている。
- 事務局が地域の連携、調整の役割を担っている。
- 行政等連絡調整会議が地域と行政を繋ぐ場として、有効に機能する。

次年度目標

豊間3地区+沿岸地区の広域連携の推進

2 仮設店舗の開設と実証実験

開設準備会

- 店舗参加4者と先導モデル事務局で構成
- 今年度20回の会合
- 中小機構、市との調整
- 店舗配置、商品、メニューの調整



店舗構成



婦人会の参画

- 協働加工販売会の設置
- かーちゃんの力を發揮
- 視察研修(ひかりん村等)
- 特産品づくり・販売実験(ポーポー焼き、おふくろ弁当)



学生との連携

- 地域の料理: さんまのポーポー焼きの試作
- 婦人会と学生の協力による新レシピ作り
- 地域紹介「とよマップ」(福島大学行政学類学生)



土地区画整理完了後、産業・交流拠点(地域センター)と優良な住宅地の整備を図り、若い世代の戻る街を目指す

3 災害公営住宅でのコミュニティ再生

町会・隣組再生

- 192戸の帰還(6月と10月に入居)
- 入居後の住民ワークショップの開催
- 4町会、30隣組と団地管理会の設置決定



集会所活用

- 豊間区全体で利用
- 集会所活用した交流活動の推進(棟別顔合わせ会: 11~12月、団地交流会12月から)



どんぐり交流

- どんぐりプロジェクト※地域のどんぐりを首都圏の里親に育ててもらい、2年後、防災緑地に植える
 - 11月: 赤坂商店会
 - 12月: 尾山台団地
 - 2月: 船橋美し学園等



学生との連携

- ワークショップ参画(東海大学、日本女子大学)
- 入居者アンケート調査・ヒアリング調査(大妻女子大学)



優良な住宅地整備と町会・町名変更

